公　開
資料３

第　３２８回　　幹　事　会
公　開　審　議　事　項

令和４年７月２７日

日　本　学　術　会　議

公　開　審　議　事　項

	件名・議案	提案者	資料（頁）	提案理由等（※シンポジウム等、後援関係については概要を記載）	説明者	根拠規定等
Ⅲ　公開審議事項						
１．規則関係						
提案１	第25期における意思の表出の案の提出期限等について	菱田副会長	5	第25期における意思の表出の案の提出期限等を決定する必要があるため	菱田副会長	ー
２．委員会関係						
提案２	（幹事会附置委員会） 地方学術会議委員会委員の決定（追加１件）	会長	9	地方学術会議委員会における委員を決定する必要があるため。	望月副会長	内規12条２項
提案３	（分野別委員会） 分科会委員の決定（追加１件）	第二部長	11	分野別委員会における分科会委員を決定する必要があるため。	第二部長	内規18条
３．提言等関係						
提案４	回答「研究力強化ー特に大学等における研究環境改善の視点からーに関する審議について」について日本学術会議会則第２条第６号の「回答」として取り扱うこと	我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会委員長	別冊	我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会において、回答を取りまとめたので、関係機関等に対する回答として、これを外部に公表したいため。 **※科学的助言等対応委員会査読**	我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会山口周委員長、西山慶彦副委員長	意思の表出等の作成手続について３（３）
４．国際関係						
提案５	令和４年度代表派遣について、実施計画の追加及び派遣者を決定すること	会長	13	令和４年度代表派遣について、実施計画の追加及び派遣者を決定する必要があるため。	髙村副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規19条２項、22条
提案６	令和４年度フューチャー・アースに関する国際会議 (1)代表者の派遣の決定 (2)外国人招へい者の決定	会長	15	令和４年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣を決定するとともに、外国人招へい者を決定する必要があるため。 **※国際委員会７月26日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会７月25日承認**	髙村副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規53条

５．その他のシンポジウム等						
提案７	公開シンポジウム「地球の未来を切り拓く－育種学の役割－（第３回「スマート農業と育種学」））」の開催について	農学委員会委員長	19	主催：日本学術会議農学委員会育種学分科会 日時：令和４年９月１日（木）15:00～17:00 場所：オンライン開催 **※第二部承認**	－	内規別表第１
提案８	公開シンポジウム「東日本大震災の復興をめぐる社会的モニタリングの方法と課題」の開催について	社会学委員会委員長	21	主催：日本学術会議社会学委員会災害・復興知の再審と社会的モニタリングの方法検討分科会 日時：令和４年９月17日（土）10:00～16:30 場所：オンライン開催 **※第一部承認**	－	内規別表第１
提案９	公開シンポジウム「アジアから見たウクライナ戦争－世界の視線の多様性と日本の選択－」の開催について	史学委員会委員長	25	主催：日本学術会議史学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・地域研究委員会合同アジア研究・対アジア関係に関する分科会 日時：令和４年９月18日（日）13:00～17:30 場所：オンライン開催 **※第一部承認**	－	内規別表第１
提案10	公開シンポジウム「DNA親子鑑定の実用化がもたらす家族観のゆらぎと法的･社会的課題」の開催について	臨床医学委員会委員長	27	主催：日本学術会議臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会 日時：令和４年９月25日（日）14:00～16:30（予定） 場所：オンライン開催 **※第一部、第二部承認**	－	内規別表第１
提案11	公開シンポジウム「「情報の輸送と輸送路でつなぐ細胞－身体とこころ、社会と世界」の可視化」	総合工学委員会委員長	29	主催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会 日時：令和４年９月26日（月）10:00～17:00 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） **※第三部承認**	－	内規別表第１
提案12	公開シンポジウム「科学的知見の創出に資する可視化（８）「マンガ・アニメと日仏の身体文化」と細胞～顕微鏡で観て、触って分かる「いのちのユニット･やわらかい細胞」がうみだす　やわらかい心と体の科学）」の開催について	総合工学委員会委員長	33	主催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会 日時：令和４年９月27日（火）10:00～17:00 場所：日本学術会議講堂またはフランス大使館（東京都港区）（調整中）（ハイブリッド開催） **※第三部承認**	－	内規別表第１
提案13	公開シンポジウム「国際ガラス年2022記念シンポジウム」の開催について	化学委員会委員長	37	主催：日本学術会議化学委員会無機化学分科会、化学委員会材料化学分科会 日時：令和４年９月30日（金）13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） **※第三部承認**	－	内規別表第１
提案14	公開シンポジウム「変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課題」の開催について	史学委員会委員長	39	主催：日本学術会議史学委員会、史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会 日時：令和４年10月２日（日）13:30～17:30 場所：オンライン開催 **※第一部承認**	－	内規別表第１

提案15	日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会 「琉球列島の言語的・文化的多様性とその起源：多様性の今とこれから」の開催について	科学者委員会委員長	41	主催：日本学術会議九州・沖縄地区会議、琉球大学 日時：令和４年10月13日（木）15:00～17:00 場所：琉球大学　研究者交流施設１階多目的室AB（沖縄県中頭郡西原町）（ハイブリッド開催） **※科学者委員会承認**	－	内規別表第1
提案16	公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム（「歴史総合」をめぐって(６)－「歴史総合」の教科書と授業を検討する）」の開催について	史学委員会委員長	43	主催：日本学術会議史学委員会、史学委員会中高大歴史教育に関する分科会 日時：令和４年10月29日（土）13:30～17:30 場所：駒澤大学駒沢キャンパス（ハイブリッド開催） **※第一部承認**	－	内規別表第１
提案17	公開シンポジウム「異なるモダリティを統合するバイオ計測の最前線と展望」の開催について	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会委員長	45	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会 日時：令和４年11月15日（火）13:00～17:40 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） **※第二部承認**	－	内規別表第１

６．後援

提案18	国内会議の後援をすること	会長	49	以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①化学工学会第53回秋季大会特別シンポジウム「SDGs達成に向けた札幌宣言の実行ー小島嶼国の持続可能な発展への化学工学の貢献ー」 ②化学工学会第53回秋季大会特別シンポジウム「2050年カーボンニュートラルへの道」 ③2022年URSI日本電波科学会議	会長	後援名義使用承認基準３(２)ウ

７.その他

	件名	資料(頁)
参考	**今後の総会及び幹事会開催予定** 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、８月30日(火)13:30～開催。	51

提案１

第２５期における意思の表出の案の提出期限等について（案）

（令　和　４　年　７　月　２　７　日
日本学術会議第３２８回幹事会決定）

意思の表出の適切な発出（内容、時期など）を実現するとともに、期末における集中を回避し、査読及び審議（意思の表出の案を承認するための審議をいう。以下同じ。）に要する十分な期間を確保するため、第２５期における意思の表出の案の提出期限等については、以下のとおりとする。

ただし、緊急又は早期の意思の表出が求められるなどの特段の事情がある場合は、この限りでない。

１．検討課題等の提出期限

意思の表出等の作成手続について（令和３年１２月２４日日本学術会議第３２０回幹事会決定）Ⅱ２の規定に基づき、意思の表出の発出を希望する委員会等は、遅くとも令和５年１月３１日までに、意思の表出を行おうとする検討課題等を事務局（科学的助言等対応委員会の事務を担当する者）に提出する。

２．査読案の提出期限

部及び分野別委員会並びにそれらの下の分科会は、遅くとも令和５年３月３１日までに、意思の表出の案（査読を受ける案）を事務局（査読組織の事務を担当する者）に提出する。

幹事会附置委員会、機能別委員会、課題別委員会及びそれらの下の分科会並びに若手アカデミーは、遅くとも令和５年６月３０日までに、意思の表出の案（査読を受ける案）を事務局（査読組織の事務を担当する者）に提出する。

３．審議案の提出期限

部及び分野別委員会並びにそれらの下の分科会は、遅くとも令和５年４月３０日までに、意思の表出の案（査読を完了した案）を事務局（審議組織の事務を担当する者）に提出する。

幹事会附置委員会、機能別委員会、課題別委員会及びそれらの下の分科会並びに若手アカデミーは、遅くとも令和５年７月３１日までに、意思の表出の案（査読を完了した案）を事務局（審議組織の事務を担当する者）に提出する。

４．留意事項

（１）委員会等において計画的に審議を行うこととし、上記に定める期限までに提出がなかった場合は、今期中に意思の表出を発出できないことがあるため留意すること。

（２）査読組織及び審議組織においては、意思の表出の質を確保する観点から、十分な査読及び審議を実施すること。特に査読組織においては、上記審議案の提出期限のために拙速な査読とならないよう留意すること。

（３）議論が尽くされない場合、査読及び審議が完了しない場合、次期に意思の表出を行うことが適切であると考えられる場合などにおいては、次期に継続して審議

することとし、今期の審議経過を「記録」として取りまとめることを含めて検討すること。

（４）委員会等の活動として、学術フォーラム又はシンポジウムの開催、日本学術会議協力学術研究団体との対話、国際学術会議団体との連携など、意思の表出の発出以外についてもあわせて検討すること。

５．その他

分野別委員会並びにそれらの下の分科会による検討課題等並びに見解及び報告に係る査読及び審議を受ける案の提出期限は、各部において１．から３．までに定める期限より前の期限を定めることができる。

附　則

（施行期日）

１　この決定は、決定の日から施行する。

（この決定の失効）

２　この決定は、令和５年９月３０日限りでその効力を失う。

（参考１）提出期限一覧

	部及び分野別委員会並びにそれらの下の分科会	幹事会附置委員会、機能別委員会、課題別委員会及びそれらの下の分科会並びに若手アカデミー
検討課題等の提出期限	令和５年１月３１日まで	令和５年１月３１日まで
査読案の提出期限	令和５年３月３１日まで	令和５年６月３０日まで
審議案の提出期限	令和５年４月３０日まで	令和５年７月３１日まで

（参考２）査読組織及び審議組織一覧（上段：査読組織、下段：審議組織）

作成主体／種類	分野別委員会分科会	分野別委員会、部に置かれる分科会	課題別委員会に置かれる分科会、機能別委員会に置かれる分科会、幹事会附置委員会に置かれる分科会	部、課題別委員会、機能別委員会、幹事会附置委員会、若手アカデミー
勧告、答申、要望、声明	分野別委員会、対応委員会 幹事会、総会	対応委員会 幹事会、総会	委員会、対応委員会 幹事会、総会	対応委員会 幹事会、総会
提言、回答	分野別委員会、対応委員会 幹事会	対応委員会 幹事会	委員会、対応委員会 幹事会	対応委員会 幹事会
見解	分野別委員会、部 対応委員会	部 対応委員会	委員会 対応委員会	－ 対応委員会
報告	分野別委員会 部	－ 部	－ 委員会	－ 対応委員会

※「意思の表出等の作成手続について」（令和３年 12 月 24 日日本学術会議第 320 回幹事会決定）の定めを整理したもの。

※「対応委員会」とは、科学的助言等対応委員会をいう。

提案２

【幹事会附置委員会】
○委員の決定（追加１件）
（地方学術会議委員会）

氏　　名	所　　属　・　職　　名	備　　考
有田　伸	東京大学社会科学研究所教授	第一部会員 地区会議構成員

【設置：第 304 回幹事会（令和２年 11 月 26 日）、決定後の委員数：12 名】

提案３

【分野別委員会】

〇委員の決定（追加１件）

（基礎医学委員会機能医科学分科会）

氏　　名	所　　属　・　職　　名	備　　考
古屋敷　智之	神戸大学大学院医学研究科教授	連携会員

【設置：第302回幹事会（令和２年10月29日）、追加決定後の委員数：18名】

提案５

令和4年度代表派遣実施計画の追加及び派遣者の決定について

以下のとおり、令和4年度代表派遣実施計画の追加及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会　期	開催地/ 形式等	派遣候補者 （職名）	推　薦	内　容
1	S20（Science 20）プレサミット	7月 27 日 ～ 7月 28 日	ジャカルタ （インドネシア） ／ ハイブリット形式	梶田　隆章 第三部会員 （東京大学宇宙線研究所教授）	国際委員会	**・代表派遣計画の追加** ※実施計画については第 327 回幹事会（令和4年6月 29 日）にて承認済み。 ※第 327 回幹事会（令和4年6月 29 日）にて髙村ゆかり第一部会員（東京大学未来ビジョン研究センター教授）の派遣を了承済み。 ※7月 28 日オンライン出席
2	IAP（InterAcademy Partnership）総会	11 月1日 ～ 11 月3日	アリゾナ （アメリカ） ↓ オンライン	髙村　ゆかり 第一部会員 （東京大学未来ビジョン研究センター教授）	国際委員会	**・派遣者の決定** ※実施計画については第 322 回幹事会（令和4年2月 24 日）にて承認済み。 ※オンライン出席
3	世界科学フォーラム（WSF）	12 月6日 ～ 12 月9日	ケープタウン （南アフリカ）	近藤　康久 連携会員 （大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所准教授） 標葉　隆馬　※ ― （大阪大学社会技術共創研究センター准教授）	若手アカデミー国際分科会	**・派遣者の決定** ※実施計画については第 322 回幹事会（令和4年2月 24 日）にて承認済み。 ※現地出席予定

	会議名称	会　期	開催地/ 形式等	派遣候補者 （職名）	推　薦	内　容
4	IUHPST（国際科学史技術史科学基礎論学会連合）／DHST（科学史技術史部門）評議会	12 月9日 ～ 12 月 10 日	オンライン	橋本　毅彦 連携会員 （東京大学大学院総合文化研究科教授）	史学委員会 IUHPST 分科会	**・派遣者の決定** ※実施計画については第 322 回幹事会（令和4年2月 24 日）にて承認済み。 ※オンライン出席

※の派遣候補者は、特任連携会員に承認されることを条件とする。

提案６

令和４年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会　　期	計	開催地及び用務地	派遣候補者（職名）	備　　考
1	フューチャー・アース総会（Assembly）	９月 21 日 ～ ９月 23 日	３日	パリ(フランス)／ハイブリッド形式	渡辺　知保 連携会員 （長崎大学学長特別補佐（プラネタリー・ヘルス担当）、大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授）	第１区分 ※オンライン出席予定

※令和４年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（令和４年２月 24 日日本学術会議第 322 回幹事会決定）に基づく区分

●令和４年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針

（令　和　４　年　２　月　２　４　日
日本学術会議第３２２回幹事会決定）

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、令和４年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、日本学術会議が日本の代表機関として国際本部事務局の機能（日本支部）の一部を担っていること、また、日本学術会議連携会員が国際本部事務局日本支部事務局長を務めていることから、令和４年度の内規第 51 条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

(1) 第１区分
- フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である総会（Assembly）、評議会（GC: Governing Council）、国際本部事務局の行う会議へ、国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- 本年度、オンライン開催を含め、総会は１回程度、GC は４回程度、国際本部事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

(2) 第２区分
- フューチャー・アースの実施に当たり、国際本部事務局が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- 具体的には、日本学術会議が国際本部事務局として運営の一部を担う予定であるグローバル研究ネットワーク（GRNs: Global Research Networks） に関する会議に関する会議等への派遣を行う。
- 上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

(3) 第３区分
- フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員を派遣する。
- 上記に当たっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりが大きなものを優先する。
- さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のグローバル研究ネットワーク（GRNs: Global Research Networks）の会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

「フューチャー・アース総会（Assembly)」への招へい者について

番号	国際会議等	会　期	計	開催地及び用務地	招へい候補者氏名 役職 (国名)	備　考
1	フューチャー・アース総会（Assembly)	9月21日 ～ 9月23日	3日	パリ(フランス)／ハイブリッド形式	Kalpana Lalitkumar Chaudhari Ph.D. in Engineering and Technology Vice President, of Institute for Sustainable Development and Research ,ISDR, India(インド)	Governing Council メンバーとして参加するため ※現地出席予定
2	フューチャー・アース総会（Assembly)	9月21日 ～ 9月23日	3日	パリ(フランス)／ハイブリッド形式	Battogtokh Dorjgotov PhD in Research and Development (R&D) managemen Director General, Department of Science, Technology, Innovation Policy and Coordination of Policy Implementation,Ministry of Education and Science(モンゴル)	National Committee(Mongolia)メンバーとして参加するため ※現地出席予定
3	フューチャー・アース総会（Assembly)	9月21日 ～ 9月23日	3日	パリ(フランス)／ハイブリッド形式	Balt Suvdantsetseg PhD (Geo-informatics and Environmental Governance) head of Administration and Planning department, head office Mongolian academy of sciences(モンゴル)	National Committee(Mongolia)メンバーとして参加するため ※現地出席予定

番号	国際会議等	会期	計	開催地及び用務地	派遣候補者 （職名）	備考
4	フューチャー・アース総会（Assembly）	9月21日 ～ 9月23日	3日	パリ(フランス)／ ハイブリッド形式	Giovanni Avila-Flores PhD of Marine and Coastal Sciences, Specialization in Sustainable Management Autonomous University of Baja California Sur, Mexico. (UABCS) (メキシコ)	Early Career Researcher メンバーとして参加するため ※現地出席予定
5	フューチャー・アース総会（Assembly）	9月21日 ～ 9月23日	3日	パリ(フランス)／ ハイブリッド形式	Lucas Enrico PhD in Biology National University of Córdoba (アルゼンチン)	Governing Council メンバーとして参加するため ※現地出席予定
6	フューチャー・アース総会（Assembly）	9月21日 ～ 9月23日	3日	パリ(フランス)／ ハイブリッド形式	LOURDES J. CRUZ Ph.D. Biochemistry National Scientist & Prof. Emeritus, UP Diliman(フィリピン)	National Committee(Philippine) メンバーとして参加するため ※現地出席予定

提案７

公開シンポジウム
「地球の未来を切り拓く－育種学の役割－（第３回「スマート農業と育種学」）」
の開催について

１．主　催：日本学術会議農学委員会育種学分科会

２．共　催：一般社団法人日本育種学会

３．後　援：なし

４．日　時：令和４年（2022 年）９月１日（木）15：00 ～ 17：00

５．場　所：オンライン開催

６．分科会等の開催：未定

７．開催趣旨：
　地球規模の気候変動による生産減少、世界的な食料需要の増大、我が国の食料自給率の低下など食糧の安定供給に対する国民の不安が高まっている。その一方で、スマート農業の実践、AI の利用、ゲノム科学による革新的な育種の可能性など、新たな革新も進んでいる。
　育種学分科会では、30 年後、50 年後の社会のために育種学は何にどう取り組むべきかを広い視野で考え直す必要があると考え、一般社団法人日本育種学会との共催で公開シンポジウム「地球の未来を切り拓く－育種学の役割－」を開催する。本シンポジウムでは、将来の育種学を考えるうえで指針となる広い知見を提供していただける先生方を講師に招く。育種学に関わる研究者や学生だけではなく、一般の方々も含め議論する。連続公開シンポジウム第３回は「スマート農業と育種学」というテーマで開催する。

８．次　第：

挨拶
15:00　　開会の挨拶及び趣旨の説明
　　　　　調整中（一般社団法人日本育種学会）
第１セッション「講演会」
◇総合司会
有村　慎一（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

15:05　　「スマート農業の現状と将来展望」
　　　　　野口　伸（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院農学研究院副研究院
　　　　　　　　　長・教授）
15:25　　「演題問合せ中」
　　　　　宮地　誠（株式会社 Happy Quality 代表取締役）

15:35　　休憩

第２セッション「パネルディスカッション」
◇総合司会
　磯部　祥子（公益財団法人かずさ DNA 研究所先端研究開発部室長）
15:45　　パネルディスカッション
　　　　　野口　伸（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院農学研究院副研究院
　　　　　　　　　長・教授）
　　　　　宮地　誠　（株式会社 Happy Quality 代表取締役）
　　　　　江花　薫子（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、遺伝
　　　　　　　　　　資源研究センターチーム長）
　　　　　有村　慎一（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
　　　　　坂本　亘（日本学術会議連携会員、岡山大学資源植物科学研究所教授）

閉会の挨拶
17:00　　経塚　淳子（日本学術会議第二部会員、東北大学生命科学研究科教授）

９．関係部の承認の有無：第二部承認

10．関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案８

公開シンポジウム
「東日本大震災の復興をめぐる社会的モニタリングの方法と課題」
の開催について

１．主　催：日本学術会議社会学委員会災害・復興知の再審と社会的モニタリングの方法検討分科会

２．共　催：なし

３．後　援：なし

４．日　時：令和４年（2022 年）９月 17 日（土）10：00 ～ 16：30

５．場　所：オンライン開催

６．分科会等の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：
東日本大震災から 11 年が過ぎ、震災だけでなく復興に関わる経験が政府・自治体・地域社会・企業・市民社会に蓄積されてきた。令和３年度には復興庁に復興知見班が設置された。蓄積された知見をどう生かすか。震災直後の第 22 期から活動を継承してきた本分科会も、今後の災害・復興対策に資する社会的モニタリングの方法と課題を探るため、検討を重ねてきた。津波災害、原発災害など個別イシューを越え、震災被害者の主体的な復興をキーワードに、復興・復興施策とは何か、そこで専門知とはどうあるべきか。社会学だけでなく地理学、環境学、宗教学、経済学、歴史学、工学など分野横断の委員が参加する本分科会の成果を踏まえ、復興に携わる現地の方の参画も得て、今後に資するモニタリングの方法的枠組みについて考える。

８．次　第：
10:00　開会
（総合司会）　池田　恵子（日本学術会議連携会員、静岡大学教育学部学校教育教員養成課程初等学習開発学専攻教授）
10:05　開会の挨拶　佐藤　嘉倫（日本学術会議第一部会員、社会学委員会委員長、京都先端科学大学人文学部教授・学部長）

第一部　　　司会　池田　恵子（日本学術会議連携会員、静岡大学教育学部学校教育教員養成課程初等学習開発学専攻教授）

10:10　「循環する災害知・復興知－社会的モニタリングのために」
吉原　直樹（日本学術会議連携会員、東北大学名誉教授、社会理論・動態研究所理事・研究員）

10:25　「社会的モニタリングとアーカイブ－復興過程の検証と再帰的ガバナンス」
青柳　みどり（日本学術会議特任連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所社会環境システム研究センター主席研究員）

10:40　「災害への備えと復興に対する人々の意識－住民意向調査や JGSS データを基に」
岩井　紀子（日本学術会議第一部会員、日本版総合的社会調査共同研究拠点大阪商業大学 JGSS 研究センターセンター長）

10:55　「原発事故復興政策のモニタリングとフィードバック」
山下　祐介（日本学術会議連携会員、東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

11:10　「政策評価制度の歴史的展開を再考する―震災・復興政策アーカイブの意義と役割」
町村　敬志（日本学術会議連携会員、東京経済大学コミュニケーション学部教授、一橋大学名誉教授）

11:25　討論
第一部登壇者全員
玉野　和志（日本学術会議連携会員、東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

12:00～13:00　休憩

第二部　　司会　池田　恵子（日本学術会議連携会員、静岡大学教育学部学校教育教員養成課程初等学習開発学専攻教授）

13:00　「国際教育研究拠点と国際研究教育機構～創造的復興の意味～」
山川　充夫（日本学術会議連携会員、福島大学名誉教授・客員教授）

13:15　「市民セクターからの復興モニタリング」
増田　聡（日本学術会議連携会員、東北大学大学院経済学研究科教授）

13:30　「原子力災害の有無による復興過程の違い」
岩渕　明（日本学術会議連携会員、岩手大学名誉教授）

13:45　討論

第二部登壇者全員

島薗　進（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、上智大学グリーフケア研究所･所長）

第三部　　司会　浅川　達人（日本学術会議連携会員、早稲田大学人間科学学術院教授）

山下　祐介（日本学術会議連携会員、東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

14:00　討論　被災地との往還を通しての論点の提示

岩手県・宮城県・福島県で復興に携わってきた地元関係者

総合討論（登壇者全員）

15:00　討論者　奥村　弘（日本学術会議連携会員、神戸大学大学院人文学研究科長）

16:15　まとめ　島薗　進（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、上智大学グリーフケア研究所･所長）

16:25　閉会の挨拶　吉原　直樹（日本学術会議連携会員、東北大学名誉教授、社会理論・動態研究所理事・研究員）

16:30　閉会

９．関係部の承認の有無：第一部承認

１０．関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案９

公開シンポジウム
「アジアから見たウクライナ戦争－世界の視線の多様性と日本の選択－」
の開催について

１．主　催：日本学術会議史学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・地域研究委員会合同アジア研究・対アジア関係に関する分科会

２．共　催：科学研究費補助金（基盤研究（B）「中国の世界秩序観の歴史的変遷と現在」）（研究代表者：川島　真）

３．後　援：なし

４．日　時：令和４年（2022 年）９月 18 日（日）13：00 ～ 17：30

５．場　所：オンライン開催

６．分科会等の開催：未定

７．開催趣旨：
ウクライナ戦争は、現在、そして今後、どのような影響を世界や東アジアの秩序、日本の進路に影響を与えるのか。この問いに答えるためには、世界の多様な視線、考え方を踏まえなければならないだろう。とりわけ、先進国の視点だけでこの問題が捉えられるわけではないことは重要であり、日本との関わりを考えるならばアジアの視点を理解することが必要となろう。これは、先進国でも喫緊の課題とされている、新興国、グローバルサウスとの意思疎通という点にも関わる。そこで、本シンポジウムでは、日本の学術研究の蓄積を踏まえ、主にアジア諸国・地域がどのようにウクライナ戦争を捉え、自らの進路を見定めようとしているのかということを考察、議論し、ロシア・ウクライナ側の視点も併せて論じることにより、日本国内での西側先進国としての見方を相対化しつつ、立体的な視角からウクライナ戦争を見つめ直し、日本の進路についての示唆を得ようとするものである。

８．次　第：
挨拶
13:00　開会挨拶　川島　真（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）
第１セッション「アジア諸地域から見たウクライナ戦争の諸相」

◇司会：三重野　文晴（日本学術会議連携会員、京都大学東南アジア地域研究所教授）

13:10　「中国から見たウクライナ戦争」
益尾　知佐子（九州大学比較社会文化研究院准教授）

13:30　「中央アジアから見たウクライナ戦争」
宇山　智彦（日本学術会議第一部会員、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

13:50　「東南アジアから見たウクライナ戦争」
相沢　伸広（九州大学比較社会文化研究院准教授）

14:10　「ウクライナ戦争をめぐるインドの対応と論理」
溜　和敏（中京大学総合政策学部准教授）

14:30　「中東（トルコ）から見たウクライナ戦争」
今井　宏平（独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員）

休憩（10 分）（14：30～14：40）

第２セッション「ロシアの視点・ウクライナの視点」

◇司会：栗田　禎子（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院人文科学研究院教授）

14:40　「ロシアにおけるナショナリズムの諸相とウクライナ」
乗松　亨平（東京大学大学院総合文化研究科教授）

15:00　「黒海から見たウクライナ戦争」
黛　秋津（東京大学大学院総合文化研究科教授）

総合討論（15：20～17：30）

◇司会：川島　真（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

討論者　羽田　正（東京大学名誉教授）
古城　佳子（日本学術会議連携会員、青山学院大学国際政治経済学部教授）
鈴木　絢女（同志社大学法学部教授）

挨拶

閉会挨拶　栗田　禎子（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院人文科学研究院教授）

９．関係部の承認の有無：第一部承認

１０．関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案10

公開シンポジウム
「DNA 親子鑑定の実用化がもたらす家族観のゆらぎと法的･社会的課題」
の開催について

１．主　催：日本学術会議臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会

２．共　催：一般社団法人日本人類遺伝学会

３．後　援：なし

４．日　時：令和４年（2022年）９月25日（日）14：00 ～ 16：30（予定）

５．場　所： オンライン開催

６．分科会等の開催：開催予定なし

７．開催趣旨：
　親子関係の認定をはじめとするDNA型鑑定技術の進歩と社会実装、その波及としての鑑定商品・ビジネス化その他の諸問題に対する法学や司法の分野での対応等について、臨床ゲノム医学と法学との対話を行う。

８．次　第：

挨拶
14:00　開会の挨拶
戸田　達史（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院医学系研究科 脳神経医学専攻 臨床神経精神学講座 神経内科学分野教授、一般社団法人日本人類遺伝学会理事）

◇総合司会
山内　泰子（日本学術会議連携会員、川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科教授）
櫻井　晃洋（日本学術会議連携会員、札幌医科大学医学部遺伝医学教授、一般社団法人日本人類遺伝学会理事）

14:05　導入・概要と趣旨説明と問題提起

「DNA 親子鑑定の実用化がもたらす親子関係の揺らぎ、司法・社会の混乱と課題」
高田　史男（日本学術会議連携会員、北里大学大学院医療系研究科教授、一般社団法人日本人類遺伝学会理事長補佐）

14:35　「法曹界での親子関係の現在の受け止め、ＤＮＡ親子鑑定に絡めて」
棚村　政行　（早稲田大学法学学術院教授）

休憩（５分）（15：05～15：10）

15:10　「司法の現場から；弁護士の立場から」
高取　由弥子（涼和綜合法律事務所弁護士）

15:40　「司法の現場から；裁判官の視点を踏まえた弁護士の立場から」
今村　和彦（今村和彦法律事務所弁護士、元裁判官）

16:10　総合討論・総括
シンポジウム登壇者全員

９．関係部の承認の有無：第一部、第二部承認

10．関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 11

公開シンポジウム
「「情報の輸送と輸送路でつなぐ細胞ー身体とこころ、社会と世界」の可視化」
の開催について

１．主　催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会

２．共　催：一般社団法人可視化情報学会、一般社団法人日本応用数理学会、 一般社団法人日本機械学会、 一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、日本身心一体科学研究会、一般社団法人日本女性科学者の会、フランス大使館

３．後　援：内閣府、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、独立行政法人日本学術振興会、国立研究開発法人科学技術振興機構、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、公益社団法人日本自動車技術会、他

４．日　時：令和４年（2022 年）９月 26 日（月）10：00 ～ 17：00

５．場　所：日本学術会議講堂、会議室６－A（１）及び（２）
（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）（会議室は小委員会開催のため）

６．分科会等の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：
長期化したコロナパンデミックにおけるソーシャル・ディスタンスやテレワークなどのニューノーマル、人工知能（AI）とデジタルトランスフォーメーション（DX）との共存など、直接のコミュニケーションや触れ合いの時間が減少しており、不活動と引きこもりが増え､若い人の自殺率も増えている。人間も含めて生命体及び生命体が作る社会は､動的で適切なコミュニケーションで成り立っている。本シンポジウムでは、人間の Well-being を Society5.0 時代に適応・進化する人間を支える細胞システムと人間社会システムの「輸送路・コミュニケーションの見える化」から理解する。

８．次　第：
総合司会：跡見　順子（日本学術会議特任連携会員、東京農工大学工学府応用化学専攻客員教授、東京大学名誉教授）

［午前の部］
10：00-10：05 挨拶　吉村　忍（日本学術会議第三部部長、第三部会員、東京大学副学長、大学院工学系研究科教授）
10：05-10：10 挨拶　萩原　一郎（日本学術会議特任連携会員、明治大学研究・知財戦略機構研究特別教授）

10：10-10：15 来賓挨拶 内閣府（調整予定）
10：15-10：20 来賓挨拶 文部科学省（調整予定）
10：20-10：30 「人間が生きることと科学技術」
岡　貴子（文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室室長）
10：30-11：15 若手リレートーク「微小管による中心体の位置決め」
永井　友朗（福島県立医科大学医学部助教）
井上　大介（九州大学芸術工学研究院助教）
山本　昌平（東京大学大学院薬学系研究科助教）

11：15-12：00「細胞内動的輸送路・細胞骨格微小管が生み出す細胞の創発システム」
Manuel Thery (Research director at the CEA)

12：00-13：00 休憩

［午後の部］
「人間生命体の情報輸送システムは、社会における情報輸送システムモデルになるか？」
13：00-16：00
１．「筋と脳の情報コミュニケーションの素過程」
柳田　敏雄（大阪大学大学院生命機能研究科特別研究推進講座特任教授）
２．「細胞外マトリックスを分泌して細胞-組織をつなぎ身体をつくる」
平澤　恵理（順天堂大学大学院医学研究科教授）
３．「姿勢・運動・栄養をつなぐ線維タンパク質と身心一体学習が高齢社会を救う」
跡見　順子(日本学術会議特任連携会員、東京農工大学工学府化学専攻客員教授・東京大学名誉教授)
４．「脳-身体間の情報の伝達と連係」
跡見　友章（杏林大学保健学部理学療法学科教授）
５．「社会と輸送」
萩原　一郎(明治大学研究・知財戦略機構研究特別教授、東京工業大学名誉教授)
６．「世界の情報ファイバーシステム」
原　丈人(一般財団法人アライアンス・フォーラム財団会長)
７．「多次元時系列データからのシステム状態の特定・遷移の可視化」
小山田　耕二（日本学術会議第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授）
16：00-16：55 パネルディスカッション
「リアルと情報を運動と可視化でつなぐ」
司 会：清水　美穂（東京農工大学大学院工学府客員准教授）
16：55-17：00 閉会の挨拶
小山田　耕二（日本学術会議第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授）

９．関係部の承認の有無：第三部承認

１０．関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」
（IYBSSD2022）連絡会議
パンデミックと社会に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案12

公開シンポジウム
「科学的知見の創出に資する可視化（8）「マンガ・アニメと日仏の身体文化」と細胞～
顕微鏡で観て、触って分かる「いのちのユニット･やわらかい細胞」がうみだす
やわらかい心と体の科学）」（第２部：一般向け講演会）
の開催について

１．主　催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
２．共　催：一般社団法人可視化情報学会、一般社団法人日本応用数理学会、 一般社団法人日本機械学会、 一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、日本身心一体科学研究会、一般社団法人日本女性科学者の会、フランス大使館

３．後　援：内閣府、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、独立行政法人日本学術振興会、国立研究開発法人科学技術振興機構、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、公益社団法人日本自動車技術会、他

４．日　時：令和４年（2022年） ９月27日（火）10：00 ～ 17：00

５．場　所：日本学術会議講堂、会議室６－A（１）、（２）
（東京都港区六本木7-22-34）（会議室は小委員会開催等のため）
またはフランス大使館（東京都港区南麻布4-11-44）（調整中）
（ハイブリッド開催）

６．分科会等の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：
特有の文化や科学技術をうみだした人間の「立位で動く身体の可能性」を、マンガやアニメ、そして自分の体の中を生きる場として私たち人間と同じように支点をつくり生きている細胞がもつ大きな可能性について、次世代を担うこどもたちにわかってもらう。コロナや戦争で先が見えない社会へ、37億年の歴史をもつ生命の単位「細胞」がもつ能力を引き出すのは、わたしたちひとりひとりであること、働きかければ応えてくれる自分の身体とのお付き合いの仕方を、科学とマンガやアニメとリンクさせて理解してもらう。フランス人科学者、Manuel Thery博士と、流鏑馬を趣味とするフランス人ロボット研究者Gentine Venture先生（東京大学教授）を向かえて、戦前の日本では当たり前だった正座Haraを中心に所作する合理と学習方法についても紹介する。フランスのアランの幸福論、ショシャールの人間の生物学、ともに和訳はあるが、英訳はない。哲学者でありフランスの首相に

もなったメルローポンティは身体の重要性を説いた。日仏共通の身体文化を通じて、生命の単位「細胞」から、平和について考える。

８．次　第：

総合司会：跡見　順子（日本学術会議特任連携会員、東京農工大学工学府化学専攻客員教授・東京大学名誉教授）

10：00-12：00　体験！跡見・清水研究室親子細胞アカデミー

「いのちは、やわらかく、ダイナミックだ」

・細胞から簡単にDNAを取り出してみる

・まんがを描くとわかる細胞、アニメで分かる細胞たち「あ！細胞も足踏みしている！

12：00-13：00　休憩

13：00-16：00

主催者挨拶　（調整中）

来賓挨拶　（調整中）

講演１　「アニメで分かること、伝えること」

小林　七郎（画家、アニメーション美術監督）

講演２　「日仏の文化の体験と科学～流鏑馬とロボット」

Gentine Venture（東京大学大学院工学部研究科教授）

講演３　「細胞を元気にする体操」

跡見　順子（日本学術会議特任連携会員、東京農工大学工学府化学専攻客員教授・東京大学名誉教授）

講演４　「マンガのように楽しい細胞たち」

Manuel Thery（フランス原子力・新エネルギー庁(CEA)）

講演５　「鉄道博物館で世界をかけめぐる」

原　丈人（一般財団法人アライアンス・フォーラム財団会長）

16：00-16：55　パネルディスカッション:まんがとサイエンス

司 会　清水　美穂（東京農工大学大学院工学府客員准教授）

16：55-17：00　閉会の挨拶

小山田　耕二（日本学術会議第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授）

９．関係部の承認の有無：第三部承認

１０．関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」
（IYBSSD2022）連絡会議
パンデミックと社会に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案13

公開シンポジウム
「国際ガラス年2022　記念シンポジウム」
の開催について

１．主　催：日本学術会議化学委員会無機化学分科会、化学委員会材料化学分科会

２．共　催：国際ガラス年日本実行委員会、公益社団法人日本化学会（予定）、公益社団法人日本セラミックス協会（予定）等

３．後　援：未定

４．日　時：令和４年（2022年）９月30日（金）13：00 ～ 17：00

５．場　所：日本学術会議講堂、１階ホワイエ、６－C(1)会議室
（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
（※１階ホワイエは国際ガラス年関連の素材等の実物及び資料展示のため、６－C（１）会議室は分科会開催のため使用）

６．分科会等の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：
令和３年（2021年）５月18日の国連総会にて，2022年を国際ガラス年とすることが定められた。ガラスは紀元前からの技術や芸術に始まり、現代社会を支える素材として長い歴史を有する。さらに、ガラスは早くから再利用に取り組まれてきた素材であり、持続可能な社会を目指す私たちの生活に不可欠な基盤材料である。一般の方にとって、ガラスという身近な素材の科学や工業を知る機会は、科学技術に興味を抱き理解を深めることにつながる。化学委員会無機化学分科会は、このように無機材料の中心として長い歴史を持つガラスの国際年を積極的に支援し、ガラスがもたらしてきた偉大な功績を多くの市民と共有して祝福し、未来に向けた科学技術の発信に位置する企画を立ち上げた。この企画では、日本を代表する世界的なガラスの専門家が、工業的魅力、学際的魅力、発展的な社会との連携を軸に講演するシンポジウムを一般に向けて開催し、市民社会との対話を通じて科学への理解を深める。

８．次　第：

挨拶

13:00　　ようこそ

茶谷　直人（日本学術会議第三部会員、大阪大学名誉教授）

13:05　　開催趣旨

長谷川　美貴（日本学術会議連携会員、青山学院大学理工学部化学・生命科学科教授）

第１セッション「ガラスと私たちの生活」

◇第一部総合司会

内田　さやか（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻准教授）

13:10　　基調講演『地球は黒曜石を作り、人類はガラスを作った』（仮）

有岡　雅行（日本電気硝子株式会社代表取締役会長、公益社団法人日本セラミックス協会元会長）

13:40　　招待講演『ガラスが織りなす光ネットワーク』（仮）

中沢　正隆（東北大学電気通信研究機構特任教授）

14:10　　招待講演『身の周りのガラス材料』（仮）

小池　章夫（AGC 株式会社技術本部材料融合研究所無機材料部部長）

休憩（30 分）（14：40～15：10）

第２セッション「ガラスと私たちの未来」

◇第二部総合司会

井頭　麻子（日本学術会議議連携会員、明治学院大学法学部消費情報環境法学科准教授）

15:10　　招待講演『国際ガラス年国連採択の経緯』（仮）

田部　勢津久（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

15:40　　招待講演『次世代固体電池を支えるガラス』（仮）

林　晃敏（大阪公立大学大学院工学研究科教授）

16:10　　招待講演『（未定）』

小田　玲子（フランス ボルドー大学、CNRS 教授）

総合討論

16:55　　閉会の辞

関根　千津（日本学術会議第三部会員、株式会社住化技術情報センター代表取締役社長）

９．関係部の承認の有無：第三部承認

１０．関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 14

公開シンポジウム
「変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課題」
の開催について

１．主　催：日本学術会議史学委員会、史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会

２．共　催：なし

３．後　援：なし

４．日　時：令和４年（2022 年）10 月２日（日）13：30 ～ 17：30

５．場　所： オンライン開催

６．分科会等の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：
　変容する現代世界の中で歴史認識が持つ重要性について日本・アジア・世界をつなぐグローバルかつ複眼的な視角で検討するとともに、現代日本社会における歴史教育・歴史実践のあり方を議論する。歴史認識・歴史教育のあり方を国際的視野から考えると同時に、多様な角度からの問題提起・討論によって議論を深め、市民との対話、社会発信の場とすることを目指す。

８．次　第：
挨拶
13:30　開会挨拶
久留島　典子（日本学術会議連携会員、神奈川大学国際日本学部教授）
13:40　趣旨説明
栗田　禎子（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院人文科学研究院教授）
第１部：歴史認識と現代世界：日本のアジア認識と歴史認識問題
◇司会
平野　千果子（日本学術会議連携会員、武蔵大学人文学部教授）
久保　亨（日本学術会議連携会員、信州大学人文学部特任教授）
13:50　報告１『日中/日台関係と歴史認識問題――社会的「分断」と歴史政策』

川島　真（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）
14:20　　報告２『東アジアにおける歴史認識の課題』
鄭　在貞（ソウル市立大学名誉教授）
14:50　　コメント『認識と問題をグローバルな文脈に置き直す』
井野瀬　久美恵（日本学術会議連携会員、甲南大学文学部教授）
休憩（10 分）（15：10～15：20）

第２部：討論
◇司会
大日方　純夫（日本学術会議連携会員、早稲田大学名誉教授）
栗田　禎子（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院人文科学研究院教授）
中村　元哉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授）
◇討論者
「歴史教育の視点から」
坂井　俊樹（日本学術会議連携会員、開智国際大学教育学部教育学部長・教授）
「史料保存・社会のなかの歴史実践の視点から」
奥村　弘（日本学術会議連携会員、神戸大学大学院人文学研究科長）
「ジェンダー史の視点－史学委員会ジェンダー史委員会の取組・議論から」
長　志珠絵（日本学術会議連携会員、神戸大学大学院国際文化学研究科教授）
「パブリック・ヒストリーの視点から―〈過去に対する真摯さ〉からプラクティカル・パストの構築を検証する」
北條　勝貴（上智大学文学部教授）
休憩（10 分）（16：20～16：30）
16:30　総合討論
挨拶
17:30　　閉会挨拶
佐野　正博（日本学術会議第一部会員、明治大学経営学部教授）

９．関係部の承認の有無：第一部承認

１０．関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

提案15

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会
「琉球列島の言語的・文化的多様性とその起源：多様性の今とこれから」
の開催について

1． 主　催：日本学術会議九州・沖縄地区会議、琉球大学

2． 後　援：沖縄県、沖縄科学技術大学院大学、一般財団法人沖縄美ら島財団
（全て予定）

3． 日　時：令和４年10月13日（木）15：00 ～ 17：00

4． 場　所：琉球大学　研究者交流施設１階多目的室AB（沖縄県中頭郡西原町）
（ハイブリッド開催）

5． 分科会等の開催：同日13：00 ～ 14：30に科学者懇談会を開催予定。

6． 開催趣旨：
亜熱帯に位置する琉球列島における生物の多様性やその背景にある様々な生命現象及びそれらに関する研究や取り組みを紹介する。

7． 次　第：
15:00～15:10　開会挨拶
菱田　公一（日本学術会議副会長・第三部会員、明治大学研究・知財戦略機構特任教授）
西田　睦（琉球大学学長）
15:10～16:05　講演
狩俣　繁久（日本学術会議連携会員、琉球大学名誉教授）（30分間）
木村　亮介（琉球大学医学研究科教授）　（30分間）
16:05～16:10　休憩
16:10～16:50　パネルディスカッション
議題：多様性の今とこれから
コーディネーター：藤田　陽子（琉球大学島嶼地域科学研究所教授）
パネリスト　　　：狩俣　繫久（琉球大学名誉教授）
木村　亮介（琉球大学医学研究科教授）
山極　海嗣（琉球大学島嶼地域科学研究所講師）
石原　昌英（琉球大学国際地域創造学部教授）
佐々木　健志（琉球大学博物館助教）
16：50～17:00　閉会挨拶
玉田　薫（日本学術会議第三部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学主幹教授・副学長）

司会進行：千住　智信（日本学術会議連携会員、琉球大学工学部教授）

8．関係部の承認の有無：科学者委員会

9．関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

提案16

公開シンポジウム
「歴史教育シンポジウム（「歴史総合」をめぐって(6)－
「歴史総合」の教科書と授業を検討する）」
の開催について

１．主　催：日本学術会議史学委員会、史学委員会中高大歴史教育に関する分科会

２．共　催：日本歴史学協会

３．後　援：未定

４．日　時：令和４年（2022年）10月29日（土）13：30 ～ 17：30

５．場　所：駒澤大学駒沢キャンパス（東京都世田谷区駒沢１－23－１）
（ハイブリッド開催）

６．分科会の開催：検討中

７．開催趣旨：

このシンポジウムシリーズでは過去５回にわたって「歴史総合」について各方面から検討してきたが、令和４年４月から実際に「歴史総合」の授業が始まり、教科書が使用されている。そして、教科書は市販もされ、多くの人が見られるようになった。これらを受けて、どのような教科書が出来上がったか、学習指導要領とその解説の趣旨はどのように実現されたかなどを検討する。

さらに、授業で使う教科書とは何か、授業ではどのように利用されるのか、歴史用語の暗記中心の歴史教育から大きく脱皮した新学習指導要領の下で、「歴史総合」では、教科書はどのように位置付けられるか、教科書と授業の関係を検討する

８．次　第：

総合司会　中野　聡（日本学術会議連携会員、日本歴史学協会常任委員、一橋大学学長）
君島　和彦（日本学術会議連携会員、日本歴史学協会常任委員、東京学芸大学名誉教授）

13：30～13：40　開会挨拶　若尾　政希（日本学術会議第一部会員、日本歴史学協会委員長、一橋大学大学院社会学研究科教授）

13：40～13：50　趣旨説明　君島　和彦（日本学術会議連携会員、日本歴史学協会常任委員、東京学芸大学名誉教授）

報　告

13：50〜14：30　「「歴史総合」のめざすもの―教科書の検討から」
黒川　みどり（静岡大学教育学部教授）

14：30〜15：10　「「歴史総合」の教科書分析と一年間の授業づくり」
若杉　温（千葉県立幕張総合高校教諭）

15：10〜15：50　「歴史教育実践と教科書」
坂井　俊樹（日本学術会議連携会員、開智国際大学教育学部長・教授）

15：50〜16：00　休　憩

16：00〜17：25　パネルディスカッション

17：25〜17：30 閉会挨拶：栗田　禎子（日本学術会議第一部会員、日本歴史学協会常任委員、千葉大学大学院人文科学研究院教授）

９．関係部の承認の有無：第一部承認

１０．関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の登壇者は、主催委員会・分科会委員）

提案17

公開シンポジウム
「異なるモダリティを統合するバイオ計測の最前線と展望」の開催について

１．主　催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会、オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同IUPAB分科会

２．共　催：なし

３．後　援：なし

４．日　時：令和４年（2022年）11月15日（火）13：00 ～ 17：40

５．場　所： 日本学術会議講堂（東京都港区六本木７-22-34）（ハイブリッド開催）
※新型コロナウイルス感染の状況により変更の可能性あり

６．分科会等の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：
１細胞オミックス解析や大規模ゲノム配列解析、バイオイメージング技術の近年の発展は著しい。これらの最先端バイオ計測から得られる異なるモードのデータを関連づけるための数理・情報科学の発展や莫大なデータを管理・共有するためのデータベースの整備が進められている。本公開シンポジウムでは、国内のバイオ計測拠点をリードする研究者や異なるモダリティのバイオ計測の新技術を開発する研究者、またオープンサイエンスに向けたバイオ計測データベースを構築する最先端の研究者が登壇し、「いかにしてバイオ計測の融合により新しい価値ある研究を展開し、国民の健康に資する知見を提供するか？」について議論する。

８．次　第：

開会の挨拶

13：00～13：10　原田　慶恵（日本学術会議連携会員、大阪大学蛋白質研究所教授）

第１部「バイオ計測の最先端」

座長：原田　慶恵（日本学術会議連携会員、大阪大学蛋白質研究所教授）

13：10～13：30　『生命科学の発展を加速する次世代統合バイオイメージング科学』
永井　健治（日本学術会議連携会員、大阪大学産業科学研究所教授）

13：30～13：50　『土壌微生物叢アトラスに基づいた環境制御による循環型協生農業プラットフォーム構築』
竹山　春子（早稲田大学大学院先進理工学研究科教授）

13：50～14：10　『先端バイオイメージング支援プラットフォーム（Aibis）の紹介』
上野　直人（大学共同利用機関法人自然科学研究機構基礎生物学研究所教授）

14：10～14：30　『統合ゲノム医科学情報連携研究機構の紹介』
鈴木　譲（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

休憩（15 分）（14：30～14：45）

第２部「異なるモダリティの統合に向けた技術開発」
座長：坂内　博子（日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授）

14：45～15：05　『光遺伝学とバイオ計測の融合の展望』
神取　秀樹（日本学術会議連携会員、名古屋工業大学大学院工学研究科教授）

15：05～15：25　『異なるモダリティのイメージングを可能にするバイオマーカーの創出』
渡辺　恭良（国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センターチームリーダー）

15：25～15：55　『データベース SSBD、データ共有プラットフォーム OMERO が開くオープンサイエンス』
大浪　修一（国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センターチームリーダー）

15：55～16：15　『データ統合に向けたバイオインフォマティクスの展望とリサーチデータクラウドプラットフォーム』
山地　一禎（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所コンテンツ科学研究系教授）

休憩（15 分）（16：15～16：30）

16：30～17：30　**総合討論**
モデレーター：諏訪　牧子（日本学術会議連携会員、青山学院大学理工学部化学・生命科学科教授）

パネリスト：シンポジウム登壇者全員、小林　武彦（日本学術会議第二部会員、東京大学定量生命科学研究所教授）

17：30～17：40　**閉会挨拶**

９．関係部の承認の有無：第二部承認

10．関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」（IYBSSD2022）連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案18

〇国内会議の後援（３件）

以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

１．化学工学会第53回秋季大会特別シンポジウム「SDGs達成に向けた札幌宣言の実行－小島嶼国の持続可能な発展への化学工学の貢献－
主催：公益社団法人化学工学会　戦略推進センターSDGs検討委員会
期間：令和４年９月14日（水）～９月16日（金）（調整中）
場所：信州大学長野（工学）キャンパス／オンライン併用開催
参加予定者数：約200名
申請者：公益社団法人化学工学会　会長　松方　正彦
審議付託先：第三部
審議付託結果：第三部　承認

２．化学工学会第53回秋季大会特別シンポジウム「2050年カーボンニュートラルへの道」
主催：公益社団法人化学工学会
戦略企画会議　地域連携カーボンニュートラル推進委員会
戦略推進センター・次世代エネルギー社会検討委員会／CCUS研究会／社会実装学研究会
期間：令和４年９月13日（火）
場所：信州大学長野（工学）キャンパス／オンライン併用開催
参加予定者数：約300名
申請者：公益社団法人化学工学会　会長　松方　正彦
審議付託先：第三部
審議付託結果：第三部　承認

３．2022年URSI日本電波科学会議
主催：電子情報通信学会
期間：令和４年９月１日（木）～９月２日（金）
場所：中央大学後楽園キャンパス
参加予定者数：約250名
申請者：2022年URSI日本電波科学会議大会委員長・実行委員会委員長
八木谷　聡
審議付託先：第三部
審議付託結果：第三部　承認

参考

○今後の予定

●幹事会

第３２９回幹事会	令和４年　８月３０日（火）	１３：３０から
第３３０回幹事会	令和４年　９月２８日（水）	１３：３０から
第３３１回幹事会	令和４年　１０月２４日（月）～２６日（水） ※第１８５回総会期間中に開催予定	
第３３２回幹事会	令和４年　１１月２８日（月）	１３：３０から
第３３３回幹事会	令和４年　１２月２１日（水）	１３：３０から

以降の幹事会日程は追って調整

●総会

第１８５回総会　令和４年１０月２４日（月）～２６日（水）